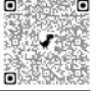


小学校給食無償化による本市の対応

養田 英雄 (蒼倫維新)



問 今回の小学校給食無償化は、児童1人につき月額5200円を国と都道府県が分担して費用を支援する予定であるが、この金額で従来の質と量を維持できるのか。

答 本市における本年度の決算見込みから算定した児童1人当たりの食料費用は月額5500円である。こうした状況を鑑み、国の示す月額5200円の中で、これまでの質と量を維持するとともに、栄養バランスの取れた安心、安全な給食を引き続き提供できるように、物価変動等を注視しながら、効率的な食料調達や献立の工夫など一層の見直しを図っていく。

問 効率的な食料調達や献立の工夫とは？

答 比較的価格が低く安定する旬の食料を積極的に活用してまいりたい。また、調理時の加工コストを抑えるため、手作り調理の比率を高めるなど、献立の工夫とともにコスト管理の徹底に努めていく。

【その他の主な質問】

○職員の働き方改革について

企業誘致の現状と課題について

新 諒 平 (令和研究会)



問 企業誘致の成果指標としている「企業立地件数」の実績は現在あるのか。

答 現時点で企業立地の実績はない。

問 企業からの相談案件はどの程度あり、どの段階まで進んでいるのか。

答 相談件数は約100件。そのうち庁内調整など次の段階に進んでいる案件は17件。

問 企業誘致が進まない主な要因は何か。

答 企業の希望に合う土地条件、道路アクセス、雇用確保など複数の要因がある。また、用地取得済みの案件についても建設コストの高騰などにより立地が遅れている。

問 企業が相談してから立地までの期間はどの程度か。

答 現行制度では約10か月。条例改正により6〜7か月程度まで短縮される見込み。

問 ロボットやAIなど、県の重点分野を活用した企業誘致の方向性はあるか。

答 現時点で具体的な計画はないが、提案として受け止め企業誘致施策の参考とする。

「よみがえれ！ 行田の桜プロジェクト」について

木村 博 (公明党)



問 行田の桜の復活にふるさと納税を活用した理由とは。

答 クビアカツヤカミキリの被害などで枯れた桜の伐採だけでなく植樹も含めた「よみがえれ！ 行田の桜プロジェクト」として事業化し、ふるさと納税を活用した。

問 本ふるさと納税の目標金額と、実際の寄附金額及び寄附者の要望等とは。

答 目標金額を400万円としたところ、608万1千円の寄附があった。寄附者からの要望等では「また美しい桜が見られることを楽しみにしている」、「次の世代にたくさん桜を咲かせてほしい」など、桜の復活を願うメッセージが多く寄せられた。

問 植樹する桜の種類や場所などの決定方法は。

答 桜に関係する団体、地元自治会や害虫対策の有識者などからなる行田のさくら未来会議の意見を参考にした。

【その他の主な質問】

○総合体育館のトイレの洋式化について

○道路の空洞化について